# 令和３年度　児湯るぴなす支援学校　学校評価のまとめ（職員、保護者、学校評議委員）

〇評価区分　４：期待以上である　３：ほぼ期待どおりである　２：やや期待を下回る　１：改善を要する

| | |
|---|---|
| | 児童生徒一人一人のいのちを尊重し、それぞれの多様な学びにきめ細かく寄り添い、支え、地域とつながる日々の学校生活を通して、児童生徒が共生社会の一員として、自分らしい生き方を創造することを目標に、保護者・地域から信頼される活力ある学校づくりを進める。 |
| 経営ビジョン | １　教育課程の充実（１）多様な学びを支える教育課程の編成と実施（２）キャリア教育の視点をいかした学習活動の展開（３）地域の人材や資源をいかした学習活動の充実<br>２　知肢併置校としての専門性の向上（１）ICT機器等を活用した学習活動の開発（２）授業力の向上を中心に据えた校内研究の充実（３）外部専門家との協働による研修の充実（４）医療的ケア体制の充実<br>３　安全安心な学校生活を送れる体制整備（１）ホームページや情報メールを活用した情報共有と危機管理（２）防災・避難訓練等の計画的実施と防災教育の強化（３）校内、校外の安全環境の整備<br>４　地域支援・連携の推進（１）小・中学校、高等学校との交流および共同学習の推進。（２）地域における学校、各機関が有する特別支援機能強化の支援 |

| 項目 | | 重点目標 | 職員評価 | 保護者評価 | 学校の自己評価(主な成果・課題等) | 学校評議員評価・感想等 | 今後の改善策 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 重点目標１ | 個が輝き合える魅力ある学校作り | 多様な学びを支える教育課程の編成と実施に努め、児童生徒の実態に応じた教育活動を実践している。 | ３，２ | ３，５ | 個別の支援計画・個別の指導計画については、県内の支援学校で書式を統一する。本校は次年度から使用していく。ＰＴＡ役員会、総会で説明を行い、個別面談で保護者と一緒に作成していくことになる。<br>教育課程については、児童生徒の実態に応じて、学習内容等を工夫していく。高等部については4年度から新学習指導要領が完全実施となるため、検討を行い「情報」を取り入れＩＣＴに対応していく。 | ・職員のみなさんの防災に対する意識、知識とも年々向上しているように感じる。その態度が子ども達へも伝搬し、児童生徒の防災意識の向上につながっていると思う。<br>・懸案事項であったスクールバスの運行が開始され、保護者だけでなく児童生徒も安心して登下校ができている。バス導入に御尽力いただいた方々、行政の方々ご苦労様でした。<br>・コロナ禍で学校に足を運ぶことができず、行事等を見ることができず評価が難しい。ホームページでの行事紹介はとても良い。<br>・新型コロナウイルス感染症のため行動に制限があるが、今後はウィズコロナの考えで取り組んでいく必要がある。相手先の都合もあるが、感染症対策を十分に行って行事や校外での学習活動を行ってほしい。<br>・ＩＣＴに関しては学習効果も含めて検証をしてほしい。<br>・防災の観点からも地域に支援学校があることを知ってもらうことは大事なことである。非常時に忘れられないためにも啓発は必要。<br>・防災訓練を地域と共に行ってほしい。<br>・防災に関しては家庭の状況等を含めて保護者との意見交換会などを開催してはどうか。<br>・今後はＩＣＴを活用した防災教育（ＶＲ）などを進めてほしい。<br>・防災のうえで今後避難場所としての面で施設の整備が必要ではないか老朽化している。また、避難経路が一カ所（施設が袋小路になっている）ため整備が必要。<br>・スクールバスが導入されて本当に良かった。車イスを使用している児童生徒のしてほしい。スクールバスの防災訓練も必要だろう。<br>・居住地校交流の現状について。相手校の受け入れ体制はどうか。相手校の反応はどうか。 | 本年度は、（１）個が輝き合える魅力ある学校づくり（２）主体的に学びあう教師集団の育成（３）安全安心な学習環境の整備（４）地域支援・連携、を重点項目に設定し、目標達成に向けて取り組んだが、外部との連携推進に係る努力項目において低い評価が見受けられた。コロナ禍で学習活動に制限がかかる中、校内ではリモートを活用した授業や行事の実施によって、児童・生徒の学習機会の保障を図った。一方、地域の外部人材との連携など対面を主とした人的交流には十分になしえない一年となった。校内におけるＩＣＴ機器の活用で培われた技術をもとに、地域への発信や交流に援用できる体制作りに努めたい。<br>また、防災の観点からは、地域との合同避難訓練の実施や被災時におけるスクールバス対応シミュレーション、ＶＲを利用した実践的な防災学習など、具体的な提言をいただくことができた。災害時に地域の方々からの支援をいただくためにも、本校の児童・生徒との交流の場を設け、認識を深めていただけるような取組を進めていきたい。<br>交流籍、居住地校交流、学校間交流など保護者への啓発を進め積極的に交流を進めていく。<br>本年度の取り組みにおける課題に対し、学校評議員の方々から次年度につながる提案を多数いただくことができた。今回の学校評価を踏まえ、ウィズコロナ時代に対応した学校運営を目指し、西都・児湯地区唯一の特別支援学校としての責務を果たしていきたいと考える。 |
| | | キャリア教育の視点をいかした学習活動を展開している。 | ３，０ | ３，３ | キャリア教育に関しては、全体計画にそって全職員で取り組んでいる。各学部での取り組みに対し、段階的な指導という観点での検証が十分でないため、今後継続しての検証が必要である。今年度はｗｅｂ会議システムを使って企業や事業所とつなぎ、仕事の内容や働くうえで必要なことなどを学習した。 | | |
| | | 地域の人材や資源をいかした学習活動を行っている。 | ２，７ | ３，３ | コロナ禍の中、地域に出かけることや、地域からの来校も難しい。また、西都・児湯地区の資源に興味関心をもたせる工夫が足りず、社会見学などは宮崎市内に向かっている。今後職員が積極的に西都・児湯地区に目を向け資源を活用する工夫が必要である。 | | |
| 重点目標２ | 主体的に学び合う教師集団の育成（知・肢併置校としての専門性） | 授業力の向上を中心に据えた校内研究を実施している。 | ３，１ | ３，２ | 「児童生徒の『伝える力』を高める授業作り」をテーマに小学部が「ＰＤＣＡサイクルシートを活用した授業実践を通して」中学部が「自立活動シートを活用した授業実践を通して」高等部が「性教育の授業実践を通して」と学部ごとに取り組んだ。今年度は学部を越えた授業参観を動画で参観することができ、学部を越えた授業の検討が実践できた。学部間での継続的な指導、学校外での実践等の検証など今後の課題である。保護者に対して研究について報告する機会を工夫して保護者への啓発につなげていくことが必要である。 | | |
| | | 外部専門家との協働による研修を行い専門性の向上に努めている。 | ２，８ | ３，１ | ＩＣＴ研修、障がい種による支援のあり方研修をオンラインで行った。防災教育に関しては児童生徒と一緒に講師に来ていただき行うことができた。しかし障がいの理解や支援のあり方など、対面での研修や回数などコロナ禍のなか十分に行うことができず職員の評価の低さにつながっている。また療育センターなどに行き実際の訓練等を見て研修することも難しかった。 | | |
| | | ICT機器等を活用した学習支援や授業の開発に努めている。 | ３，３ | ３，３ | 学部間に活用の差はあるものの、一人一台のタブレットが配付され、ＩＣＴ教育推進リーダー、情報担当を中心に進めている。また今年度はＩＣＴ補助員の採用もあり、様々な場面での活用が進められた。タブレットの持ち帰りも校内で進めている。高等部、中学部は修学旅行に活用し、事前学習、見学場所等での検索や写真撮影等生徒が自主的に使用することができた。<br>３年度からインスタグラムを開設。４年度からはＹｏｕＴｕｂｅを開設し情報発信していく。 | | |
| | | 医療的ケア体制の充実に努めている。 | ３，２ | ３，３ | 今年度は5人の対象児童生徒に対して2名の看護師任用し安全な教育活動に努めた。新型コロナ感染症のため保護者に学校に待機していただくケースもあり、保護者との連携の必要性を改めて感じた１年であった。今後も修学旅行の看護師の同行、コロナ感染症対策など保護者、看護師、県と連携し充実させていきたい。 | | |
| 重点目標３ | 安全安心な学習環境の整備 | 防災・避難訓練等の計画的実施と防災教育の強化に努めホームページや情報メールを活用した情報共有と危機管理に努めている | ３，３ | ３，６ | 新富町の危機管理専門員の方からのアドバイス、意見交換を行いながら避難訓練等の計画立案、実施、改善を行っている。段ボール箱を使ったベッド作成や簡単に作れる担架など子ども達が興味をもって取り組める防災教育も提案していただき子ども達の積極的な活動が見られた。今後も連携して継続していきたい。情報伝達についてはヒムカメールを使用した双方向の情報発信（安否確認など）を運用に向けて準備中である。 | | |
| | | 感染症対策を十分に行い学習活動に取り組んでいる。 | ３，５ | ３，５ | 中学部では作業学習、高等部、小学部の音楽などの合同学習は、オンライン会議システムを活用し分散して取り組むなどの工夫している。コロナ禍の中安易に行事や学習活動を中止するのではなく、分散開催、オンライン開催などで実施できる工夫を行った。しかし社会見学などの社会資源を利用した学習活動の実施が困難であった。 | | |
| | | 校内・校外の安全環境の整備に努めている。 | ３，３ | ３，３ | 3年度の修繕箇所　体育館屋上及び小中学部棟雨漏　職員室前屋上外柵　プール濾過ポンプ、浄化槽への土砂流入防止策　トラックの真砂入れ　メリケントキンソウの駆除を実施。次年度も計画的に必要な修繕箇所を県と協議し修繕していく。要望としては自動ドアの増設、防音対策、校内交通安全のための看板等。 | | |
| 重点目標４ | 地域支援・連携の推進 | 地域における学校・各機関が有する特別支援機能強化のための連携や支援を行っている。 | ３，１ | ３，３ | チーフコーディネーターを中心に、地域の幼稚園・保育園・小学校・中学校、高等学校からの要請相談や巡回相談を行っており地域からのニーズは非常に高い。校内はコーディネーターを中心に相談、支援会議、支援と行い、また関係機関とも積極的に連携することで保護者の評価も高くなってきている。今後も地域、関係機関と連携し支援を行っていく。 | | |
| | | 小学校・中学校・高等学校との交流および共同学習の推進を図っている。 | ２，８ | ３，１ | 小中学部は昨年度から交流籍（副次籍）に取り組んでいる。しかし新富町と高鍋町の２町のみであるため今後の継続、地域拡大が課題である。また居住地校交流も継続しており、地域で地域の友達と遊ぶ姿もあり、とても意義深い取組になっている。高等部は県の事業で高校から発信する交流を行う予定であったが、感染症の状況のため計画が進められず、交流が行われなかった。次年度の実施に向けて積極的に高校に対して呼びかけていく。 | | |